

なぜお客さまは不安になるのか？

5つの原因を取り除き、安心・快適な資産運用をサポートしよう

ノースアイランド常務取締役・CFP®
岩永慶子

1 お客さまが不安に陥りやすい5つの原因とは？

投資に興味はあるものの、いざ始めてみると不安が募ったり、疑問を口にはじめたりと、投資をなかなか受け入れることができない人が存在する。その不安の原因はどこから来るのか、不安に陥りやすい事例をもとに検証してみたい。

Aさんの場合…低金利への対処法として投資を始めたケース

Aさんは超低金利のもと、

金融機関の担当者から投資商品を提案されて投資を始めた。説明を受け自己責任のもとで始めたものの、Aさんの気持ちの根底には「低金利への対処法」としての思いしかなかったため、投資本来の性質を理解できておらず、基準価額が下落すると、預貯金のほうがよかったとの思いが膨らむようになった。

Bさんの場合…インフレへの対処法として投資を始めたケース

Bさんは金融機関の担当者から「物価が上昇した場合、お金の価値が目減りする」との説明を受けて投資を始めた。しかし、投資がなぜインフレに強いのか、なぜ今後は自助努力でインフレに備える必要があるのか、その本質を理解できていなかったため、いざ投資を始めてみると不安が募るようになってきた。

Cさんの場合…退職金の運用方法として投資を始めたケース

Cさんは金融機関の担当者から「退職金はお金の色分けをしましょう」との説明を受け、一定期間据え置くことができる資金については、バランス型の投資信託を選択した。再雇用後の収入が減額するなど資産の状況が現役時代と異なりはじめると「大切な退職金が投資で半減したらどうしよう」と不安が募るようになってきた。

投資の本質や必要性が理解できていないと…

Aさん、Bさん、Cさんが短期間で不安に陥った要因はどこにあるのかを検証してみたい。Aさんのケースでは、投資を

お客さまが不安に陥りやすい5つの原因

1. 投資への興味が薄いため、投資本来の意義を理解しようとしない。
2. なぜ、投資が必要なのか、経済や社会情勢の変遷について理解できていない。
3. 投資はどれも同じリスクだと思っっている。
4. 保有している商品性について理解していない。
5. 投資の目的や時間軸が明確でない。

低金利の対処法としてしか捉えていないため、投資への興味が薄く、投資の本質を理解できていないところに問題がある。低金利への対処法として見ている場合、どうしても短期での値動きに意識が向きやすく、少し基準価額が下落すると「やはり預貯金のほうがよかった」という自己判断が生じやすい。

Bさんのケースでは、インフレが起きると価値が目減りするということも理解できて、そもそも株式や不動産などへの投資がどうしてインフレに強いとされるのか、経済そのものの構造についての理解ができていない。加えて、年金制度の移り変わりなど、今後は自助努力でインフレに対応する必要性があることの根本をわかっていないことも問題である。Cさんのケースでは、お金の色分けについては理解できてい



ても、投資が持つリスク（ブレ幅）についてきちんと理解できていないため、基準価額が少し下落すると、すぐに自身が保有する投資商品も半減してしまうのではないかと、この不安に陥っている。

購入時に詳細の説明を聞いていても、保有が始まると投資Ⅱすべて同じリスク、と考えてしまう人がいる。自身のリスク許

容度はもちろん、商品ごとが持つリスクの大きさについてもしっかりと理解しておくことが必要といえる。

なお、全体で共通している点としては、当分使う必要のない資金で投資を始めているものの、将来の使い道や出口など、投資目的が明確でないことも投資を不安にさせている原因のひとつといえそう。